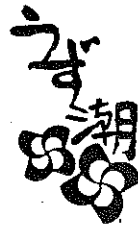


(第3種郵便物認可)

今から約5千年前、メソポタミアに都市国家が成立した。メソポタミアとは、ギリシャ語で「複数の河の間」という意味。文明摇篮(ようらん)の地が、ティグリス川とユーフラテス川に挟まれた地域であったことからその名が付いた。世界最古の文明の一つと考えられている。

メソポタミアに文明が誕生したのは、この地が、麦(農耕)と羊(家畜化)の原産地だったことと関係している。約1万3千年前、この地で麦を栽培する農耕が始まった。土地は肥沃(ひよく)で、シュメール文明における麦の収量倍率(1粒の麦から何粒の麦が収穫できるかという倍率)は70倍にも上



やまもと たろう
山本 太郎

文明の発達と自然破壊

つた諸帝国が興亡を繰り返した。この文明の地における疫病の記録が、19世紀にアッシリア遺跡から発見された遺物の一つ『ギルガメッシュ叙事詩』に残されている。叙事詩は、主人公がシュメールの都市国家ウルクに実在した王であることからこの名が付いた。叙事詩のなかで大洪水よりましな四つの災厄の一つに疫病神の到来が挙げられている。

つたという。肥沃な大地をめぐつて、シュメール、バビロニア、ヒッタイト、アッシリア、ペルシャとい

は森林資源が乏しかった。王ギル

ガメッシュは町を建設するために木材が欲しい。そこで、親友のエンキドとともに旅に出た。森はフンババという精霊によって守られていた。フンババは、森を守るためにギルガメッシュたちと戦うが、最後はエンキドによって頭を切り落とされた。こうして森は人間のものになった。

エンキドをたたら場のエボシ、フンババをシン神と置き換えれば『もののけ姫』と同じだ。

文明の発達と自然破壊。メソポタミアでは、森林伐採が土地の砂漠化と塩害をもたらし、文明衰退の原因となった。考えるべき課題は多い。

(長崎大熱帯医学研究所教授)